



おおつなみきねんひ 大津浪記念碑

「^{すまい}高き^{こまご}住居は^{わらく}児孫に^{おも(え)さんか}和楽 想へ^{おおつなみ}惨禍の大津浪
^{ここ}此処より^た下に^た家を^た建てるな」

「^たここより下に家を建てるな」と記す「^{おおつなみき}大津浪記
^{ねんひ}念碑」は、^{いわて}岩手県^{みやこ}宮古市^{あねよし}姉吉地区にあります。
 3000名近い^{しょうわ}ぎせい者を出した1933（昭和8）
 年に^{さんりく}三陸地方をお^{おおつなみ}そった大津波の後、^{たつ}そのとう達
 点よりさらに高い^{じゅうみん}場所に^た近りんの住民が建てたと
 いわれています。2011（^{へいせい}平成23）年の^{とうほく}東北地方
 太平洋沖^{たいへいようおきじしん}地震による^{つなみ}津波でさえ、この^ひ碑の手前で
 止まり、^{あねよし}姉吉地区では^{がい}ひ害をまぬがれた方も多かったです。



▲^{おおつなみきねんひ}大津浪記念碑
 （写真提供 東日本大震災写真保存プロジェクト）

何度も^{つなみ}津波にお^{とうほく}そわれている東北地方では、「^{おおつなみきねんひ}大津浪記念碑」のような^ひ碑の
 ほか、^{さいだい}近年最大の^{つなみ}津波であった1960（昭和35）年の^{しょうわ}チリ地震^{じしん}津波の^{たつ}とう達
 点を^{ひょうじばん}記した表示板が^{ひょうじばん}各地に^{ないりく}ありました。表示板は、^{つなみ}内陸深くまで津波が^{つなみ}しん入
 してくることを、^{つなみ}津波を経験した^{けいけん}ことのない^{じゅうみん}住民にも^{つた}伝えるための^{つた}ものでした。
 しかし、^{とうほく}東北地方^{たいへいようおきじしん}太平洋沖地震による^{つなみ}津波は、^{じゅうらい}従来の^{じゅうらい}想定を^{じゅうらい}大きく^{じゅうらい}こえるも
 のであり、^{ひょうじばん}多くの表示板が^{つなみ}津波に^{つなみ}のまれました。

^{あねよし}姉吉地区の^{けいけん}先ぞは、^{おおつなみ}当時^{たつ}経験した^{たつ}こともないような大津波の^{たつ}とう達点よりさ
 らに高い^た地点に、「^たここより下に家を建てるな」という^ひきびしい内よりの^ひ碑を
^{のこ}残しました。^{けいけん}想定や^{つなみ}経験を^しこえる津波への^しそなえを^し子孫に^し語りつ^しごうと^し考えた
 のは、^{たいけん}実さいに^{たいけん}想^{たいけん}ぞうを^{たいけん}ぜ^{たいけん}つする^{たいけん}体験をした^{たいけん}人々^{たいけん}だった^{たいけん}から^{たいけん}こそ^{たいけん}かも^{たいけん}しれ^{たいけん}ませ
 ん。

長い^{けいけん}年月を^{けいけん}こえて^{けいけん}先ぞの^{けいけん}教えに^{けいけん}けんきよに^{けいけん}学ぶ^{けいけん}こと、^{けいけん}想定や^{けいけん}経験を^{けいけん}こえる^{けいけん}事
 態を^{たい}想定^{たい}すること。い^{たい}ずれ^{たい}も^{たい}口^{たい}で^{たい}い^{たい}う^{たい}ほ^{たい}ど^{たい}か^{たい}ん^{たい}単^{たい}では^{たい}あり^{たい}ませ^{たい}んが、^{しょうらい}しょう来
 の^{がい}さい^{がい}害に^{ひつよう}そ^{ひつよう}な^{ひつよう}る^{ひつよう}た^{ひつよう}めに^{ひつよう}必要^{ひつよう}な^{ひつよう}こと^{ひつよう}では^{ひつよう}ない^{ひつよう}で^{ひつよう}しょう^{ひつよう}か。